

研究所訪問

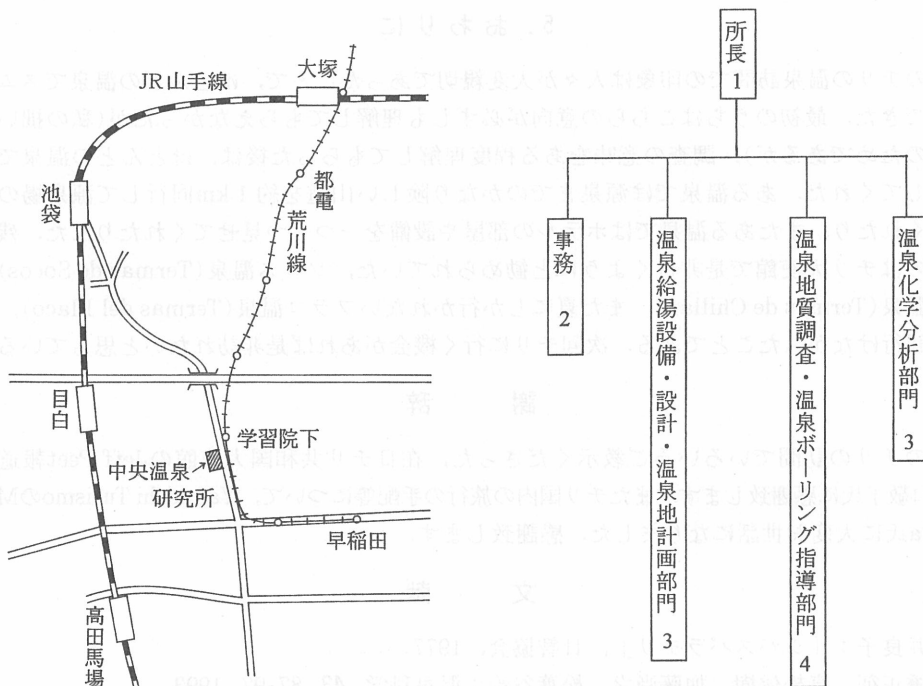
中央温泉研究所

Hot Spring Research Center

中央温泉研究所の所在地は東京都豊島区で、JR山手線高田馬場駅から徒歩12分、池袋駅から20分の位置にあり、研究所の前を通る都電やバスを利用すれば、大塚、新宿をはじめとして渋谷等へ出るのも容易な便利な場所に位置している。この地の静かな、こじんまりしたマンションの1、2階を研究所が占めている。

中央温泉研究所は、昭和24(1949)年に社団法人日本温泉協会学術部の附属機関として発足し、昭和31(1956)年5月1日に財団法人の認可をうけ、日本温泉協会の姉妹法人として成長して来た。この間数多くの研究実績を残し、我が国唯一の温泉科学専門の民間研究機関として、温泉の開発、管理、運営等全般に亘り、全国規模の業務に携わって来た。

研究所の組織は下図に示した如くで、温泉化学分析・温泉地質調査・温泉ポーリング指導・温泉給湯設備計画及び設計・温泉地計画の3つの部門に分かれ、甘露寺泰雄所長以下13名のスタッフが主として一般からの委託を受けて仕事を行っている。各部門の詳細は次のようになる。



研究所の名称及び所在地

中央温泉研究所
〒171 東京都豊島区高田3-42-10
TEL 03-3987-0751

研究部門組織図及び人員

1. 温泉化学分析部門

温泉法に基づく温泉の法定分析を始めとして、温泉沈殿物の処理等温泉を利用するにあたって必要なすべての化学分析および科学技術(例えば浴槽の衛生的管理, 細菌検査, 温泉排水に係る諸問題等)に関するコンサルタントの受託。

2. 温泉地質調査・ポーリング指導部門

温泉資源の探査, 温泉の試掘等, 温泉資源開発及び温泉資源の利用に関するあらゆる応用地学上の調査及びコンサルタントの受託。

最近では、特に源泉間の相互影響とかダム建設に伴う温泉への影響調査等の受託が増えている。

3. 温泉給湯設備計画・設計・温泉地計画部門

温泉のパイプライン, 低温泉の加熱プラント, 温泉旅館の浴室等の設計は腐食, 沈殿物の沈着, 微生物の発生等のため単なる水理工学や建築工学の専門分野のみでは解決出来ない諸問題をかかえていると同時に, 熱量計算という化学工学の諸問題までを含んでいる。研究所では, これらを総合した温泉工学ともいべき新分野を完成し, 最高水準の設計を受託している。更に, 温泉地の環境整備とか温泉を利用した福祉施設の計画, 設計等を手がけている。

また研究所は, 年間の行事として主に温泉旅館の経営者を対象とした勉強会: 温泉経営管理研修会を主催している。温泉経営管理研修会開催は今年で37回目を迎え, 本年は11月12~14日にかけて例年通り野口英世記念会館で開催された。研修会の内容は本年は①温泉行政, ②温泉地学入門, ③温泉医学入門, ④温泉化学入門, ⑤タラソテラピーとは, ⑥森林浴と温泉, ⑦温泉工学(浴槽の衛生的管理, 集中管理の実際)という温泉全般に互るもので, 最初の2日間は朝9時30分~16時30分まで講義があり, 3日目は現地見学会(本年は湯河原温泉)が行なわれた。

講義は研究所内外の各分野の専門家により行なわれ, 参加希望者が毎年全国から多数詰め掛け

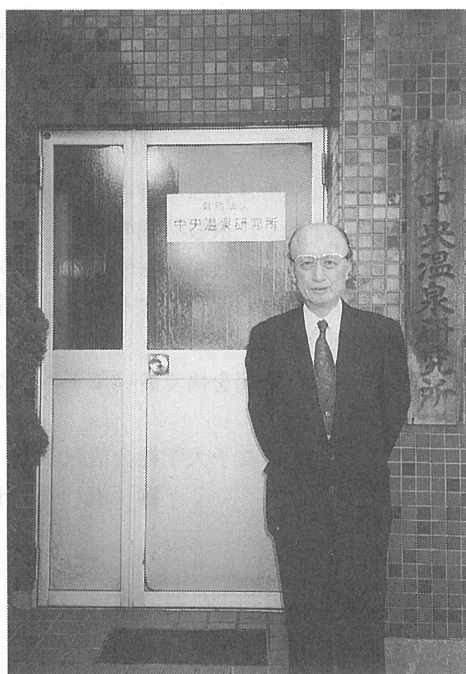


写真1 玄関前の甘露寺所長

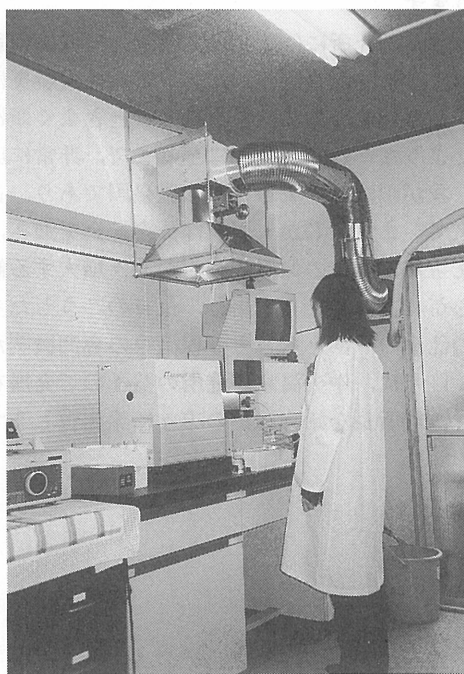


写真2 温泉分析中の所員



写真3 実験中の高橋部長

る人気のある研修会である。

近年国立大学の付属温泉研究施設が次々と名称変更や改組されたりするなかで、温泉研究所の今後のあり方や抱負について、甘露寺所長は次のように述べられました。

「中央温泉研究所の正式な業務は、環境庁や県、地方自治体から依頼される仕事が毎年コンスタントにあり、今後もこれは続く傾向にあります。研究所は、引き続き今後も現在の規模・スタッフでこれらの業務を処理していく方針です。当研究所の場合、仕事の範囲が全国に及ぶため広範囲の資料やデータの所蔵・管理が必要になりますが、その分やり甲斐もあれば面白さも大きくなります。

また研究所には正式の業務以外に沢山の疑問・質問が毎日のように寄せられて来ます。その内容は学術的な質問から、アトピー性皮膚炎はどんな温泉に入ったら良いか、といった医療関係の問い合わせ、果ては温泉に入るときよく頭に手ぬぐいをのせて入ったりするのはなぜか、といったような一般的な疑問に至るまで、非常に広範囲に亙るものです。

我が国は世界でも有数の温泉国であり、古来温泉は保健・保養に利用され広く皆に親しまれて来ています。しかも現在は長寿社会を迎え、人々の健康への関心は高く、余暇時間の増加とあいまって、温泉の保健的利用が益々増大する傾向にあります。そのため近年温泉に対する人々の関心が非常に高まって居り、毎日のこうした多くの疑問・質問に即座に対応し解答することが日常の仕事の一部とも言える程温泉の専門機関が必要になって来ています。」

最後に、中央温泉研究所の益々のご発展を祈念すると同時に多忙な時間を快くさいて下さった甘露寺所長を始め所員の方々に感謝致します。

大妻女子大学社会情報学部
堀内 公子